

福岡選抜出場校 顧問・監督 様

全国高体連空手道専門部審判委員会

この度は、全国高等学校空手道選抜大会大会の出場おめでとうございます。平素は、斯道発展になにかとご理解ご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、この度の大会出場に関しまして、特に下記の点にご留意頂きますようお願い申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染予防のため急遽、変更になる場合があります。その場合はその都度、指示いたしますのでご確認ください。

本大会は、公益財団法人全日本空手道連盟競技規定・審判規定、並びに公益財団法人全国高体連空手道専門部申し合わせ事項によっておこなわれます。競技上の事については、最終的には審判団の決めたことに従い、円滑な競技運営にご協力ください。

※監督・引率者の責任で道衣や安全具などの不備がないように十分注意してください。

TATAMI にて不備があった場合、1分間ルールを適応します。

※添付資料

空手道衣の規定(資料①)、赤青帯の指定業者・刺繍について(資料②)、指定安全具一覧(資料③)、形競技の要領と礼法(資料④)、形番号リスト表(資料⑤)、団体形(分解)について(資料⑥)、組手競技の要領と礼法(資料⑦)、計量方法・注意事項(資料⑧)、ビデオレビュー(資料⑨)を巻末に詳しく記載してありますので「申し合せ事項」と併せてご一読ください。

「安全具」(※資料③を参照)

決められた物を正しく装着してください。団体戦は、5人全員が試合開始時に全ての安全具を装着していなければいけません。(貸し借りは出来ません)シンガード、インステップガードのメーカーは「東海堂、守礼堂、ヒロタ、東京堂インターナショナル、ミズノ」の5社のみです。

但し、2022年販売の東海堂製のシンガード、インステップガードは使用できません。

※メンホー用マウスシールド(ミズノ製)は、必ず付属のテープで固定してください。

※メンホーは、「メンホーⅥ、Ⅶ」となります。

「組手競技について」(※資料⑦～⑨を参照)

・顔面への接触については、従来通りのジュニアカデットルールで実施します。

・「わかれて-つづけて(追加)」(2022年10月)で行います。

男女個人組手は敗者復活戦を行います。決勝戦進出者と対戦した選手は敗者復活戦に出場しますので、勝ち上がりをしっかり確認してください。万一、招集時間に招集していない場合、『棄権』となります。十分注意してください。

＜その他確認して欲しい点＞

・テンカウントやドクターストップを除く、C1により2回反則勝ちとなった選手は、ドクターの許可がないと以降の組手競技(個人戦・団体戦共)に出場できない。

(審判長又はTM立ち会いのもと、ドクターの診断を受け競技続行の可否を確認します)

・8ポイント以上の得点で勝利した場合、得点の全てが獲得される。例えば7対0のとき、1本(3ポイント)で得点した場合、10対0と記録される。

団体戦において、例えば2勝1敗1引き分けにおいて11ポイント以上の差があれば、その時点で終了となります(3回戦以上)。1・2回戦は勝敗が決しても最後まで行います。

・10カウントルールを採用します。

- ※団体戦のオーダー記入は、必ず監督がおこない、記入ミスのないようにしてください。
- ※男女個人組手の決勝戦、男女団体組手の準決勝戦・決勝戦はビデオレビューを行います。
- ※ビデオレビューの運用に追加変更があります。資料⑨を参照してください。

「形競技について」(※資料④～⑥を参照)

- ・上位ラウンド進出に関わる時とメダルマッチの時に同点が出た場合は「判定基準：電子システムによる解決(2022年改定)」に基づき行います。
 - ・TATAMIに入る時、出る時の礼はしないでください。時間の浪費にならないようお願いします。
また、形の開始・終了時の2回の礼をしない場合は「反則」となります。
 - ・不必要な息吹・足音、道着をたたく行為などは大幅な減点となりますので十分に注意してください。
- ※団体形の3位決定戦・決勝戦は分解を行います。高体連禁止事項(資料⑨)に注意してください。

「空手道衣・帯について」(※資料①を参照)

- ・**空手道衣の上下には高体連ラベル(黒色)、帯(灰色)が縫い付けてあること。高体連ラベルがあっても規定に反する場合は試合に出場できません。**
- ・上衣の長さは、帯を締めた状態で腰を覆うほどの長さから、大腿部の4分の3までです。
運用面(計測方法)として帯を締め真直ぐ下した状態で膝の上10cmまでとします。
- ・帯の長さは結び目の両端から15cmほど残る長さから、大腿部の4分の3以下とする。
- ・上着の袖は最長手首までとし、肘から手首の間の中程より短くてはいけない。
また、上着の袖や裾をまくってはいけない。
- ・ズボンの長さは、少なくとも下肢の3分の2を覆う長さとし、踵が隠れてはならない。
- ・袖の空き部分、ズボンの空き部分に関しては片側に寄せた状態で、余っている部分の長さが**8～20cm**でなければならない。
※必要と判断した時には、実際に測定し、それで違反と判明した場合は1分間ルールを適用します。
- ・上衣の紐は必ず付いていなければならず、さらに試合中は結んでいなければいけません。
また、上衣の胸紐は付けてはいけません。

「監督」

- ・臨時監督が付ける場合は、自校の試合が並行している場合です。また、監督席に選手を呼んで指示することは出来ません。
- ・**コロナ感染予防の観点から試合時も必ずマスクを着用してください。試合進行の妨げとなる場合、1回目は注意、2回目は退場となります。**
- ・1分間ルールが発生した場合、その試合に監督はつくことが出来なくなります。
- ・監督の服装は全種目1回戦からスーツの着用となります。スーツはダークスーツとし、ネクタイは審判員とは異なるものを着用する。女性はスラックスでもスカートでもよく、ネクタイは着用してもなくてもよい。シューズの底は体育館フローアを傷つけないゴム製や布製のものとする。
※上記以外の服装は、監督に付けない。

「運営面」

- ・**ゼッケンの縫い付けは四つ角だけでなく、必ずすべての辺全部を縫っていること。**
- ・IDカードの裏面にメディカルチェック表があります。試合時はIDカードを着用して入場してください。組手試合時はカードを回収し、ドクター診断の際、症状などを記入します。試合終了時に返却します。紛失しないようにしてください。

以上

空手道衣に関する規定について

全国高体連空手道専門部

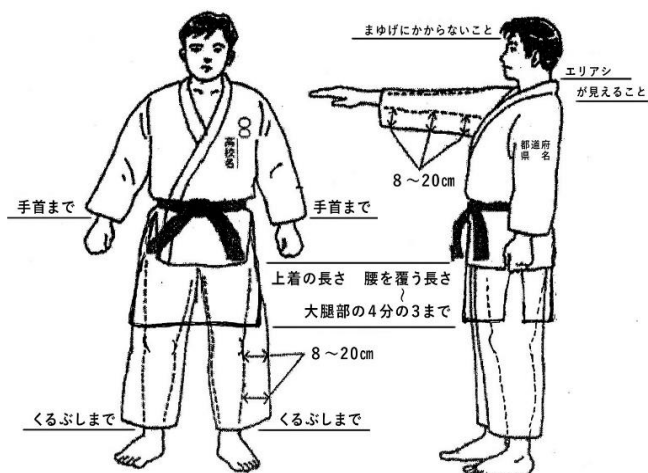
以下のように定める。また、申し合わせ事項を確認してください。

1. 道衣サイズについて
上着腕部分、下着足部分の幅は、腕・足から残りの部分が、8～20cmとする。
袖、上着の長さ、下着の裾の長さはルールブック通りとする。
2. 道衣の形について
従来のベーシックなもの（無駄なカット等のないもの）とする。
袖や裾やその他の部分において変形することは禁止とする。
3. 上衣の長さは、帯を締めて腰を覆うほどの長さとし、大腿部の4分の3まで。
測定方法として帯を締めた状態で真直ぐ下した状態で膝の上10cmまでとする。
また、帯の長さは結び目の両端から15cmほど残る長さから、大腿部の4分の3以下とする。
4. 胸紐は付けてはいけない。また上着の紐は付いていなければいけない。
5. 胸の学校名と袖の県名は、刺繍、プリントを問わず色は黒・紺・スクールカラーのどれかとする。（色を合わせて使うことは禁止。）
大きさは5×5cm～7×7cmとする。
6. 道衣の名前の刺繍は黒とする。（名前はなくてもよい。）
7. 決められた場所（胸の学校名、袖の県名、上着、下着の名前）以外に刺繍等をすることは禁止とする。**ただし、業者メーカー刺繍については、全空連が認めるようになったのでそれに準じます。**
8. 道衣（上下）には高体連指定ラベル（黒色）が縫い付けてあること。
高体連ラベルがあっても規定に反する場合は試合に出場できません。
9. **高体連指定ラベル（黒色）は、下記9社にて縫い付け可能です。**
東海堂、守礼堂、ヒロタ、東京堂インターナショナル、尚武、山雅、ミツボシ（HAYATE）、泰生、リュウジンスポーツ（adidas）
（令和5年2月13日現在）

空手道衣の名前の刺繍について

- 1, 入れなくても良い
- 2, 入れる場合は黒色とする
（白色も禁止）
- 3, 入れる場合は自分の姓（名字）
またはフルネームであることが望ましい

※袖や裾は気を付けの姿勢で計測します。



赤・青帯 指定業者について

赤・青帯の高体連指定業者は全空連指定業者と同じく以下の4社です。

東海堂 守礼堂 ヒロタ 尚武

ただし全空連検定ラベルと高体連指定ラベル（灰色）の両方を貼っているものとする。

上記4社の帯で、高体連ラベルのない帯については、ラベルだけの販売をいたします。指定業者に帯を持って行き（発送し）、ラベルを縫い付けてもらってください。ただし、ラベルを貼る場所が決まっていますので、ラベルを購入し個人で縫い付けることはしないようにしてください。

赤・青帯の刺繍について

本来のルールでは、刺繍を一切しないことになっていますが、入れる場合は以下の通りとなります。

所属名は 「〇〇高等学校空手道部」「〇〇高等学校」
「〇〇県高体連」「全国高等学校体育連盟」
「全日本空手道連盟」

※この類とし、会派流派名や道場名は不可です。

もう片方は、名前

※テーピングテープ等を帯に巻き刺繍を隠す行為は認めません。

※刺繍の色は「金色・銀色のみ」とします。

高体連指定安全具について

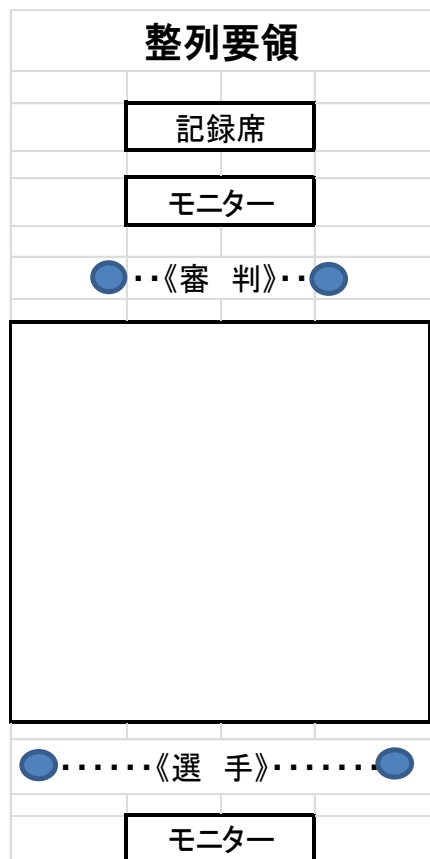
令和5年2月13日現在

安全具	指定メーカー及び注意事項
メンホー	全空連検定品 ミズノ製 ニューメンホーⅥ又はⅦ ※ミズノ製マウスシールドを装着する（テープで固定）
拳サポーター	ミズノ 東海堂 守礼堂 ヒロタ ※メンホー使用大会では全空連仕様の薄手タイプ（従来型）
ボディ プロテクター	ミズノ ※首掛け又は腹掛けタイプ（高体連ラベルは不要）
	東海堂 ※男子用（ラベルなし、高体連マークがプリント） ※女子用（青色の高体連ラベルがついたもの）
	守礼堂 ヒロタ 東京堂インターナショナル ※腹掛けタイプ（青色の高体連ラベルがついたもの）
シンガード	ミズノ 東海堂 守礼堂 ヒロタ 東京堂インターナショナル ※ミズノ製（高体連マークがプリント） ※他4社（白色の高体連ラベルがついたもの）
インステップ ガード	ミズノ 東海堂 守礼堂 ヒロタ 東京堂インターナショナル ※全5社（高体連マークがプリント） ※足の指先まで保護されたインステップガードは、ミズノ製のみが 指定品となります。

形競技の要領と礼法について

※演武前と演武後の2回の礼をしなかった場合は反則となります。

※招集場でランナーが形名を聞きます。

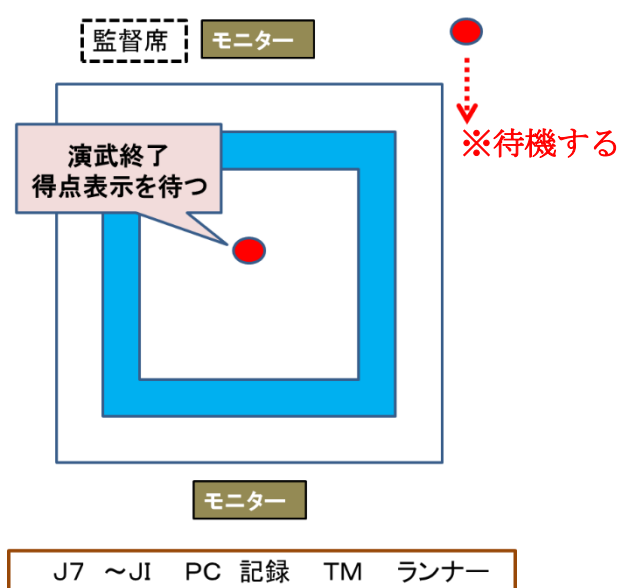
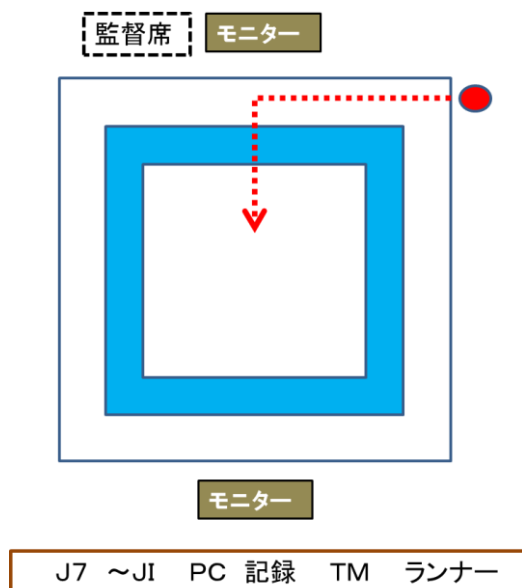


- ①招集場でランナー（選手から演武する形名を聞き取る仕事）が番号化された形リスト（資料⑤）を持って演武する形を番号で聞きます。
- ②入場後、審判の対面側に整列します。監督はタタミに誘導せず、そのまま後方の選手待機場所へ案内します。
- ③選手コール係りが選手名を呼ぶことはありません。モニターに自分の名前が表示されたら選手はタタミ中央から入場します。その際の礼はしません。
- ④演武位置に立ち、モニターに演武する形名が表示されたら礼をして演武をはじめます。この時に礼をしなかった場合、反則となります。**※1回目の礼です。**
もし、申告した形と異なる形名が表示された場合、挙手をして申し出てください。TMが対応します。この時申告されず演武した場合、反則となります。
- ⑤演武が終了したら礼をします。この時に礼をしなかった場合、反則となります。**※2回目の礼です。**
- ⑥得点発表はタタミ内で待ちます。
- ⑦モニターに得点が表示されたら短礼をしてタタミから退場します。タタミから出る際は礼をしません。
- ⑧プール全員の演武が終了したら試合前と同じように全員が整列します。

⑨全員の得点が順位付けされモニターに表示されます。

※選手の入場は（左右どちらでも良い）

※次の選手



形番号リスト表

形番号 リスト (第1R～決勝戦)				※印は指定形			
【剛柔流形】		【松涛館流形】		【糸東流形】			
形番号	形名	形番号	形名	形番号	形名	形番号	形名
1	サンチン	21	バツサイダイ	42	ジッテ	66	アオヤギ
2	サイファ ※	22	バツサイショウ	43	ジオン	67	ジュウロク
3	セイユンチン	23	カンクウダイ ※	44	ジイン	68	ニーパイボ ※
4	シソーチン	24	カンクウショウ ※	45	マツカゼ	69	サンチン
5	サンセール	25	テッキシヨダン	46	ワンシュー	70	テンショー
6	セーサン ※	26	テッキニダン	47	ローハイ	71	セイパイ
7	セーパイ ※	27	テッキサンダン	48	バツサイダイ ※	72	サンセール
8	クルルンファ ※	28	ハンゲツ	49	バツサイショウ	73	サイファ
9	スーパーリンペイ	29	ジッテ	50	トマリバツサイ	74	シソーチン
10	テンショー	30	エンピ ※	51	マツムラバツサイ	75	クルルンファ
		31	ガンカク	52	コウソウクンダイ	76	スーパーリンペイ
		32	ジオン ※	53	コウソウクンショウ	77	ハッフアー
		33	ソーチン	54	シホウコウソウクン	78	パーチャー
		34	ニジュウシホ	55	チントー	79	ヘイクー
		35	ゴジュウシホダイ	56	チンテー	80	バイクー
		36	ゴジュウシホショウ	57	セイエンチン ※	81	アーナン
		37	チンテ	58	ソーチン	82	アーナンコー
		38	ウンスー	59	ニーセイシ	83	パープーレン
		39	メイキョウ	60	ゴジュウシホ	84	チャタンヤラクーサンクー
		40	ワンカン	61	ワンシュー	85	マツムラローハイ ※
		41	ジイン	62	セイサン		
				63	ナイファンチン初段	【その他の形】	
				64	ナイファンチン二段		
				65	ナイファンチン三段	86	サンサイ

団体形競技（分解）について

全国高体連空手道専門部

選手の安全面を考慮し形の分解では、ルール上の反則行為以外に、以下の行為を禁止事項とする。

◇禁止事項

- ① 首に蟹挟みをかける行為
- ② 相手を自分の肩より上に持ち上げる行為 ※高体連申し合わせ
- ③ 相手を投げ捨てる行為（相手を片手で支えること） ※高体連申し合わせ

◇ルール上の反則行為

- ① 分解中に怪我があった場合は減点となる。ノックダウンした場合は反則となる。
- ② 審判妨害、安全性のために審判が動かざるを得なかった場合、又は接触した場合
- ③ 分解を演武しなかった場合
- ④ 時間をオーバーした場合（形演武、分解合わせて5分以内と決められている）
- ⑤ 演武中に帯が落ちた場合
- ⑥ あきらかに形が中断、又は停止した場合
- ⑦ 形演武の開始の礼、分解終了後の礼をしなかった場合（礼は3名全員すること）
また、チーム全員が主審の方を向いて演武を開始し終了すること
- ⑧ 主審の指示に従わなかった場合、品行が悪かった場合（失格になる場合もある）
- ⑨ 異なる形を演武した場合、又は異なる形名を告げた場合

◇減点要素

- ① 演武中に帯が緩んで、尻まで下がった場合
- ② むやみに足をならしたり、胸や腕又は空手着を叩いたり、むやみに息を吐き出すなどの聞こえるような音で合図した場合
- ③ 分解中に怪我があった場合

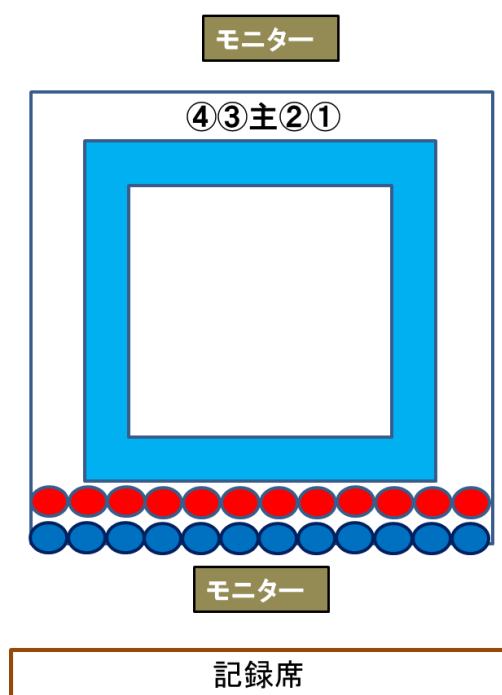
組手競技の要領と礼法について

※相手に敬意を持ってお互いに合わせて「気を付けの姿勢でしっかり礼」をしてください。
4回の礼となります。

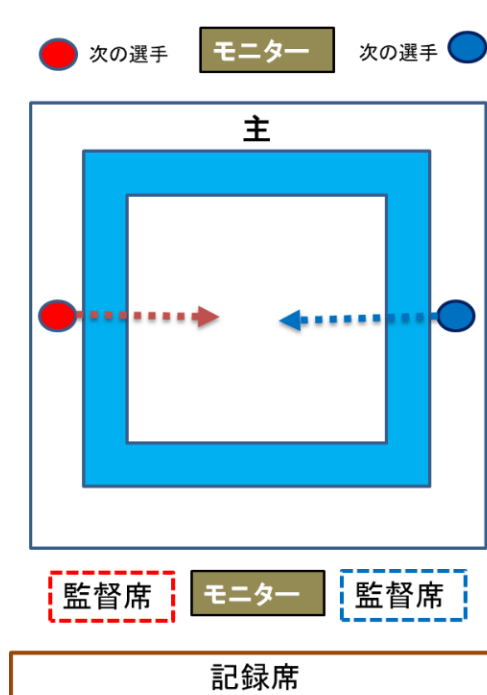
【個人組手】

- ①入場後、審判の対面側に整列します。監督はタタミに誘導せず、そのまま後方の選手待機場所へ案内します。
- ②選手コール係りが選手名を呼ぶことはありません。モニターに対戦（氏名）が表示されたら選手はタタミ横に立つ。
- ③主審の合図でタタミに入ります。監督席は主審と対面側に設けています（決勝戦はタタミ横に設置）。選手は相手に敬意を持ってお互いに合わせて礼をする。開始線に立ったら同様に合わせて「しっかり礼」をする。
- ④試合終了後、「しっかり礼」をする。タタミを出る際も同様にお互いに合わせて礼をする。

【個人組手整列】



【選手の配置】



【団体組手】

- ①入場退場は、赤青分かれてタタミ横に整列します。
- ②呼名はしない。対戦（氏名）が表示されたらタタミ横に立つ。

各階級測定幅と計量の注意事項

全国高体連空手道専門部

1. 各階級の測定値は、使う機材等によって誤差が生じることが予想されますので、選手に不利益にならないように、各階級値に $\pm 0.5\text{kg}$ の幅を持たすこととします。実際に測定した値から着衣の分 0.5kg を引いた値に $\pm 0.5\text{kg}$ の幅を持たせますので、全国選抜大会で各階級の計測器に乗った測定値は、以下のようになります。

男子

-55kg 級	計測器の測定値	56kg 未満
-61kg 級	計測器の測定値	55kg 以上 62kg 未満
-68kg 級	計測器の測定値	61kg 以上 69kg 未満
-76kg 級	計測器の測定値	68kg 以上 77kg 未満
+76kg 級	計測器の測定値	76kg 以上

女子

-48kg 級	計測器の測定値	49kg 未満
-53kg 級	計測器の測定値	48kg 以上 54kg 未満
-59kg 級	計測器の測定値	53kg 以上 60kg 未満
+59kg 級	計測器の測定値	59kg 以上

2. 全国大会で使用する機器名は

タニタ社 業務用精密体重計 WB-150 セパレートタイプ

3. 計量に関する注意事項

- ① 計量室には選手のみしか入れません。ただし、計量が最終パスできない場合は顧問の先生をお呼びし、計測係・選手・顧問の3者で確認しますので、選手と連絡をつけられるようにしておいてください。
- ② 着衣については、要項に明記してある通り「上衣はTシャツ（半袖）、下衣はスパッツ（ハーフサイズ）」となっていますので、それ以外は認めません。また、衣の分は計測値から 0.5kg 引くので、Tシャツを脱いでの測定は認めません。
- ③ 計量をパスしなかった場合は、「キケン」となり個人戦には出場できませんが団体戦には出場できます。

ビデオレビューについて

全国高体連空手道専門部審判部

男女個人組手決勝戦、男女団体組手準決勝戦・決勝戦において、ビデオレビューを導入します。以下説明をご一読ください。※8～10は追加変更箇所となります。

1. 監督は、自校の選手の出した技について、その技が入っていると思うときに椅子から立ってカード（赤・青）をあげることが出来ます。（相手の技については一切何も出来ません）判定中は立っててください。
2. CS（コーチスーパーバイザー）にカードを渡し、「何の技か」教えてください。
3. その技が入っていた場合（YES）は、主審は得点をコールし、カードは監督に戻されます。その場合、再びカードを使用することが出来ます。
4. 技が入っていない（NO）と判断された場合は、得点はコールされず、主審は続けて始めます。その際、カードは没収されます。（団体戦の場合、次の試合では使えます）
5. 監督がカードをあげたとき、その技がC1・C2だった場合、カードは返却されます。
6. ビデオスーパーバイザー（VRS）が得点の有無を確認できなかった場合、VRSは見えない（指先で両方の目を覆う）動作を行い、カードは返却されます。
7. もう一方の監督が2番目にビデオレビューを提示する場合、最初のビデオレビューが開始される前にカードを提示しなければならない。ビデオレビューは主審がビデオレビューのジェスチャーをした時点で開始されます。
8. ビデオスーパーバイザー（VRS）は、ビデオレビューを要求した競技者が、他の競技者の前または同時に得点したと認める場合のみ得点を与える。
例外として、どちらの競技者も副審によって得点が認められず、片方の監督だけがビデオレビューを要求し、もう一方の監督がカードを持っていないか、ビデオレビューをしない場合は、ビデオレビューを要求した方の技のみがビデオレビューの対象になる。（追加）
9. 副審が判定した技よりも得点が高い方の要求ができる。（追加）
10. 試合の進行を妨げることがないように、競技者が監督にビデオレビューを要求することは可能である。（追加）